瀬谷区教育研究会

1　研究主題

「社会に開かれた教育課程の創造・実践」

～主体的・対話的で深い学びを実践する授業力の向上と研究交流の広がりをめざして～

2　研究主題について

横浜市では、これまで、社会の変化に応じて、横浜らしさを生かした学校教育の指針と道筋を示し、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの「生きる力」を身に付けることをねらいとした学習活動の創造に努めてきた。瀬谷区小学校教育研究会においても、「生きる力」の具現化に向け、育成する資質・能力を明確にし、子ども一人ひとりの学力向上実現のための指導の工夫・改善を各研究会・各校で取り組んできた。

平成 29 年度に改訂された学習指導要領に示されているように、これからの学校教育には「社会に開かれた教育課程」のもと、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが求められている。また、地域社会や様々な関係機関との連携を広く図り、教育資産を有効に生かしていくことも、ますます重要になってくる。

そこで、瀬谷区小学校教育研究会では、横浜市小学校教育研究会の研究主題・副主題を受けて、研究テーマを『社会に開かれた教育課程の創造・実践』とし、サブテーマを「主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の向上と研究交流の広がりをめざして」として研究を進めてきた。各学校においても、子どもの姿や地域の実情、小中一貫教育推進「９年間で育てる子ども像」の実現のために編成した教育課程の実践、評価を行い、カリキュラムマネジメントの確立に取り組んでいる。

現在、学校では、新型コロナウイルス感染症予防や感染拡大防止をしながらの教育活動を行う状況を強いられている。しかしながら、感染症対策の中でも「生きる力」を身に付けることをねらいとした学習活動の創造を止めるわけにはいかず、限定された条件の中でも、自他の研究交流の広がりをめざし、研究を一歩でも進めていく必要がある。本研究会は、感染症対策のもと、以前より設定してきたテーマに基づいた研究を継続していくことを目指して、本研究テーマを設定した。

3　研究方法

本年度も感染症予防対策のため、集合による研修ができた日は少なかった。しかし、それぞれの部会で開催方法を検討し、研究会が継続できるように以下のような工夫をして取り組んできた。

〇オンラインによる研究会を行い、各学校や自宅から参加することが可能となった。

〇参加人数を限定し、集合研修を行った。

〇集合する学校を分散し、1 校に集中することがないようにした。

〇メールを活用して指導案、研究資料を配付し、意見交換についてもメールでのやり取りを行った。

〇一斉授業研究会は集合研修が中止となり、研究資料を事務局で集約し全校に配付した。また、事後実践報告会として、次の月の研究会で映像資料とともにオンラインで授業実践報告会を開催した。

4　年間活動（事業）報告

月	事業内容
4 月	各 AB 研　→　教科・領域部長の決定、年間計画の調整
5 月	各 AB 研　→　通常通り実施、中止、またはオンラインによる開催

6 月	第 1 回役員会・総会　→　紙面総会 各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
7 月	各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催 区水泳記録会　→　中止
8 月	各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
9 月	各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
10 月	各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
11 月	A 研一斉授業研究会　→　開催中止　→　指導案の全校配付、別月に事後報告会 各 B 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催 区球技交流会　→　中止 区音楽会　→　希望校のみの参加で音楽交流会として開催 区巡回図工展、区巡回書写展
12 月	各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
1 月	B 研一斉授業研究会　→　開催中止　→　指導案の全校配付、別月に事後報告会 各 AB 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
2 月	各 A 研　→　集合研修、またはオンラインによる開催
3 月	各 B 研　→　1 月一斉授業研究会の事後実践報告 第 2 回総会　→　紙面総会

5　研究の成果と課題

今年度についても、コロナ渦での活動が制限された一年間となった。各教科、領域研究会では、オンラインでの研究会開催が定着しつつあり、本来の集合研修と同じように活発な意見交換を踏まえた研修の場を作ってきた。これは、ひとえに研究会を運営する教科、領域研究会の世話人校長、幹事を中心とした研究部員の工夫や努力の成果によるものである。

また、各教科、領域研究会で提案される実践事例についても、コロナ渦での状況を踏まえたうえで、ＩＣＴの活用や授業形態の工夫がなされた内容を提案することが多かった。区研究会を通じて、各学校ではその実践を参考にすることができたのではないだろうか。

区振興行事については、音楽会（希望校のみ参加）や水泳記録会、球技交流会など、児童の交流行事のほとんどが中止となり、子ども同士が交流できる機会がなくなってしまっている。教員同士のオンラインによる研究会の開催が定着しつつあるなか、子どもにかかわる行事については実施することが難しい状況にある。通常の開催が難しくても、ICT 等を活用して、何らかの形で開催できるように工夫していくことができたらよいと考える。研究の継続とともに、子どもの活動についても実施できる工夫を考えていくことが、次年度への課題になると考えられる。